

## 第六十四回神田古本まっりの收穫（上）

土屋 博

令和六年十月廿五日（金曜日）の初日に加へて二日目、五日目、八日目、九日目、及び十日目に買出しに赴き、手に持ち得る限りのあまた書籍を購入せり。コロナ禍終焉により人出戻り、外國人客も目立ちたり。

### 一「訂正 古訓古事記 中巻、下巻」

（京師書肆永田調兵衛、寛政十一年御免、明治三年二刻、明治四年刻成）  
古書價格各二百圓也。高岡市萬葉歴史館に展示せられたるものと同じ。寛政十年に本居宣長古事記傳を完成したることを踏まへ、弟子たちの勧めもあり、此の訂正版出版せられたる由。



### 二「童蒙尺牘 漢語用文章」 條野孝茂著

（東京書肆松林堂、明治五年刊、七十六丁）

古書價格三百圓也。たとへば、「早春人を招く文」より、「青帝光臨東方最先開春慶暢にたへず候。今朝は神速御來例乍ら辱く、ご配慮年玉銘御惠投、多謝奉り候」云々。



### 三「御布告いろは節用 完」 鶴田眞容編述

（鶴田眞容藏版、明治八年刊、十四丁）

古書價格三百圓也。いろは順に二十個の二字熟語を教ふる本。たとへば、「い」については、委任、育民、一洗、一層、因循、依頼、畏縮、誘引、憂慮、遊惰、移日、陰謀、音言、院務、倚子、違敕、違式、違律、慇懃、飲食といふ調子なり。



#### 四「**皇室代史 全**」奥野陣七編輯

(報國社藏梓、明治十九年刊、五十九丁)

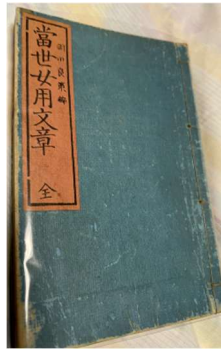
古書價格五百圓也。人皇太祖神武天皇より第二百二十二代今上天皇まで、在位年数、崩御年月日、御陵に關する情報などを纏めたるものなり。神武天皇を例に舉ぐれば、在位七十六年、丙子三月十一日崩壽百二十七。畝傍山東北陵は、周圍四百三十八間、南面東表。御陵は、大和國高市郡大久保山本村境に在すとのこと。



#### 五「**開明婦女教導 當世女用文章 全**」岡田良策編

(聚榮堂、明治二十年刊、二六丁)

古書價格九百圓也。目次は、年始の文、寒さ見舞の文、梅花を贈る文、潮干が里催しの文、花見に誘ふ文、入梅中人を慰る文、暑中見舞の文、秋の七草を贈る文、月見の文、菊花を贈る文、歳暮の文、婚禮悦びの文、安産悦びの文。

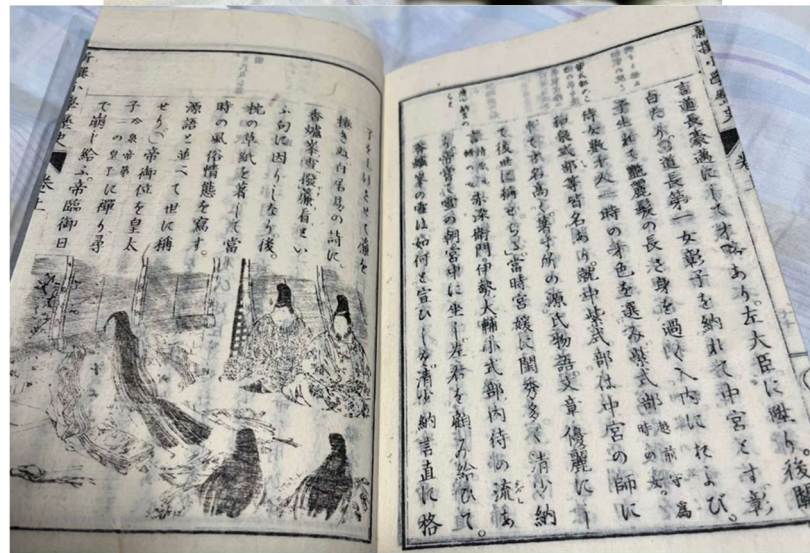


#### 六「**新撰小學歴史 卷上、卷中、卷下**」藤本眞編述、依田百川校正

(東京阪上氏藏梓、明治廿一年刊、文部省檢定濟、定價金貳拾五錢)

古書價格千五百圓也。凡例に曰く、「我が國古今の變遷を明にし生徒をして既往を現世に徴し豫め後來の形勢を考へ尊王愛國の志念を鞏くせしめんとす」と。

道長の一女彰子については、「彰子生れて艶麗、髪の長さ身を過ぐ。入内におよび侍女數十人一時の才色を選び、紫式部、和泉式部等皆名あり。就中紫式部は中宮の師にして才名高く、著す所の源氏物語文章優麗にして後世に稱せらる」と。



# 七「勅語註解 日本教育之基礎」宮中顧問官貴族院議員西村茂樹先生校閲、渡邊武助註解

(發行人中村與右衛門、明治廿四年刊、定價金參拾錢、七十頁)

古書價格八百圓也。例言に曰く、「勅語の事たる赫々として全國に照徹するものなれば固より區々の註解を要せざるなり。然れども廣大の議論無邊の道理を僅々數百言の間に含蓄するものなれば其意味甚だ高遠なり」云々と。

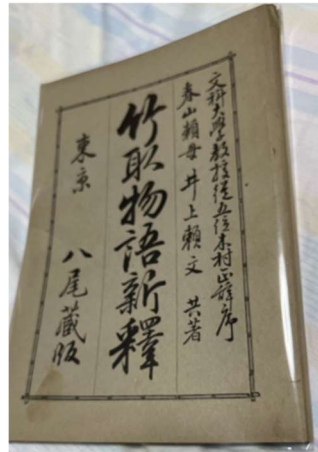


# 八「竹取物語新釋」文科大學教授從五位木村正辭序、春山賴母井上賴文共著

(八尾藏版、明治廿六年刊、正價金拾五錢、一二三頁)



古書價格五百圓也。文科大學の木村教授、序に曰く、「竹取翁物語は物語の祖なりと紫式部の源氏物語にいへり。作者は古き書物に源順とあれどそれよりもやゝ古くして弘仁頃の撰なるべしと著者の例言にもいへる。げにさこそおぼゆれ。・・・げによき國文の模範なるべし。」と。



九「標註參考 古今和歌集 全」賀茂真淵翁本居宣長翁校本、飯田武郷校閲、飯田永夫標註

(文學俱樂部、明治二十六年刊、正價金拾八錢五厘、二一六頁)

古書價格八百圓也。過去に購入したるものに比し、狀態頗る佳く、新本の如し。



十「孫子呉子講義 全」前大學教授從七位城井壽章君序、吉備越溪西村豐君講述

(三書房發兌、明治廿七年刊、一四八十八六頁)

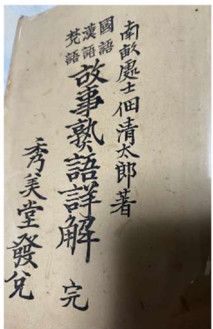
古書價格九百圓也。城井壽章、序に曰く、「余少年時好談兵。酷嗜孫呉子。日夜誦誦萬遍不厭」と。



十一「國語漢語梵語 故事熟語詳解 完」南畝處士佃清太郎著

(秀美堂發兌、明治廿七年刊、四五二頁)

古書價格九百圓也。い部石走(いははしる)は、たぎ、たるみの枕詞。ろ部六歌仙とは、在原業平、僧正遍昭、小野小町、喜撰法師、大友黒主、文屋康秀。は部はとぶしとは、鳩の鳴くこと。



## 十二「世界歴史譚第貳編 孔子」吉國藤吉著

(博文館、明治三十二年刊、正價金拾參錢、一三八頁)

古書價格五百圓也。表紙及び挿絵は横山大觀の筆によるものなれば、味はひ深し。



## 十三「藤侯實歴」大橋乙羽筆記

(博文館、明治卅二年刊、定價金參拾錢、本文六十頁、附録に青萍詩草)

古書價格千二百圓也。以前本書より遙かに状態悪しきもの、八千圓にて賣られけり。

伊藤博文侯の直話を筆記したるものなり。「私共の洋行する時分は如何な有様であつたかといふと、堀辰之助といふ人が翻譯した英吉利の辭書が一冊だけであつた。其頃はなかなか眞正に解釋する者が無いから、其間違ひのある一冊の辭書と、山陽の日本政記とを携へて洋行したのである」と。



## 十四「國文故事熟語正解」文學士山岸辰藏著

(修學堂書店、明治三十九年刊、定價金四拾五錢、本文三六五頁)

古書價格五百圓也。「あいぜん」梵語なり。佛經にいふ明王の一とす。その相貌は三面六臂にして頂に獅子の面を被れり。



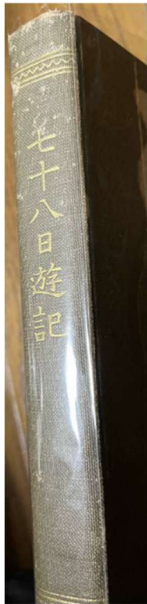
十五「新井白石全集 第三」

（發行者吉川半七、明治三十九年刊、非賣品、七二三頁）  
古書價格五百圓也。二度目の購入、以前のものより状態よし。二段組にて、折たく柴の記、古史通、讀史餘論など、白石の代表作を收録せり。



十六「七十八日遊記」徳富猪一郎著

（民友社、明治四十年三版、定價金壹圓六拾錢、三四六頁）  
古書價格五百圓也。本書は豪華本と普通本を既に所有せるも、今回は値段格安なれば、三回目の購入とはなれり。それだけの価値ある、徳富蘇峰の支那旅行記なり。



（令和六年十一月四日受附）